

23. 海上自衛隊潜水員の内耳障害

佐藤道哉*¹⁾ 北原 哲*¹⁾ 井上鐵三*¹⁾
只野 豊*²⁾ 清水彰一郎*²⁾ 大岩弘典*²⁾
池田知純*³⁾

(*¹⁾防衛医科大学校耳鼻咽喉科)
(*²⁾海上自衛隊潜水医学実験隊)
(*³⁾自衛隊江田島病院)

【目的】海上自衛隊においては、いくつかの検査を実施することにより、ある程度潜水員の適性に優れた者を選抜している。それでも、潜水時間の増加とともに、内耳障害を呈する潜水員もいることは否定できない。

しかし、内耳障害のリスクとして、潜水員のいかなる機能が深く関連しているかについては知られていない。

そこで我々は、内耳障害のリスクを知る目的で、海上自衛隊の潜水員に対していくつかの検査を実施し、若干の知見を得たので報告する。

【方法】44名の潜水員に対して、問診と鼓膜所見の他に、下記に示す検査を行った。

1. 純音聴力検査
2. 耳管機能検査
3. 鼻腔通気度検査
4. テインパノメトリー

また、過去の健康診断時の聴力検査を、内耳障害の進行度の参考にした。

【結果】純音聴力検査では、高音域の聴力低下を認める者が多く、その場合、同側の耳管機能と鼻腔通気度が低下している者が多かった。また、高音域の聴力低下は、潜水経験の少ない者にも認められた。

テインパノメトリーは、全ての潜水員が正常であった。

【考察】内耳障害のリスクとして、耳管機能と鼻腔通気の関与が考えられた。また、他の感音難聴と同様、個人の内耳の感受性も関与していることが予想できた。